

## 平成23年（2011年）度一般会務報告

(2011年4月1日より2012年3月31日まで)

### [1] 総会終了に伴う主務官庁への届出事項

- (1) 「経済産業大臣所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則」経済産業省令第55号、第6条の3および第7条の規定による届出事項。平成23年6月30日届出完了。
- (2) 理事および評議員改選による、新任、退任者氏名、法務局への登記事項、平成23年6月15日完了、同月30日、経済産業省届出済み。
- (3) 「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」の改定にともない、9月1日一般社団法人移行申請を行い、内閣府より認可、平成24年4月1日より施行。

### [2] 平成23年度において、協会運営のため開催された一般会議は次の通り。

総会	1回(6月7日)
臨時総会	2回(8月10日/10月13日) 新定款議決のため
常任理事会	6回
理事会	6回
評議員懇談会	2回
各担当理事会	12回(総務/経理/顕彰/事業/経営改革など)
監事による会計監査	2回(5月18日/10月27日)
役員候補者選任委員会	1回(12月6日)
役員候補者推薦委員会	1回 本部(3月7日)、各支部 各1回
役員選挙管理委員会	1回(5月11日)

## 平成23年（2011年）度事業報告

平成23(2011)4月から平成24(2012)3月までに行った事業概要は次の通り。

### [1] 映画及びテレビジョンの技術に関する調査研究

- (1) 規格委員会  
ISO/TC36(映画)及びISO/TC42(写真)の国内協議会へ参加しISO規格について検討。
- (2) ISO/TC36 国内協議会  
国内協議会の事務局を担当。国際規格の答申に関して国際規格回答原案を作成し報告書を提出。デジタルシネマに関する規格についても継続審議を行った。
- (3) 技術史委員会  
2011年度も開催休止。「日本映画技術史」の続編、昭和39年以降の編纂を検討。

## [2] 映画及びテレビジョンの技術に関する普及啓発

- (1) 「映像フォーラム 2011」の開催は、2011年9月8日、9日、汐留SFホールにて開催。初日はテレビ映像セミナーとして「東日本大震災・メディアが果たすべき責任とは」、「震災時におけるインターネット動画サイトの基本と応用」、「テレビ朝日・スーパーモーニングの放送・震災報告」、「TBS・NEWS 23の放送・震災報告」、「パネルディスカッション・震災発生後のカメラマン、記者の果たした役割」。2日目は映像技術賞（録音部門）受賞作品「必死剣鳥刺」および映像技術賞（美術部門）受賞作品「人間失格」の上映。映像技術基礎知識セミナーとして「映画録音・マルチチャンネルへの対応」、「VFX技術・坂の上の雲のメイキング」、「映画美術・仕事と人・その奥行と広がり」を開催した。  
なお、収益は東日本大震災の被災者支援として「テレビ朝日・ドラえもん募金」に全額寄付した。

### (2) 各部会による研究会の開催

- ◆撮影部会（運営委員会・研究試写会等など）2回（映像フォーラム 2011）
- ◆フィルム・ビデオプロセス部会（運営委員会・研究会・見学会等を含む）8回  
第9回映像技術基礎知識セミナー9月9日（映像フォーラム 2011）  
特別部会 7月6日～7日（箱根）
- ◆テレビ映像部会（運営委員会・研究会等を含む）3回  
テレビ映像特別部会 2月24日（大阪支部）
- ◆アニメーション部会（運営委員会・研究会等を含む）15回  
特別研究会・交流会 11月5日～11月6日
- ◆シアターシステム&ソリューション部会（運営委員会）3回
- ◆学生部会（運営委員会・見学会・そつせい祭等含む）6回

### (3) 各支部の活動

- ◆京都支部：支部総会（2011.01.27）、新年初顔合せ会、映画村視察研修旅行、技術検討試写会（映像技術賞「人間失格」）、京都学生映画祭（学生会員募集） 幹事会4回
- ◆大阪支部：支部総会（2011.01.13）、新年名刺交換会、受賞作品を見る会 幹事会6回
- ◆中部支部：支部総会（2012.02.17）、名刺交換会、01.20勉強会、作品上映会 幹事会4回
- ◆北海道支部：支部総会（2011.01.06）第17回北海道映像コンクール主催、勉強会 幹事会4回
- ◆九州支部：支部総会（2011.03.27） 幹事会3回
- ◆東北支部：支部総会（2011.01.27）、宮城映協合同名刺交換会、東北記者協会への協力（表彰式）  
秋の映像セミナー（11/11 東北芸術大学/東北記者協会共催） 幹事会8回
- ◆中国支部：支部総会（2010.03.27）、Canon/C300セミナー、テレビ映像セミナー（大阪支部）への参加 幹事会3回

## [3] 映画及びテレビジョンの技術に関する出版物の発行

- (1) 機関誌「映画テレビ技術」の発行  
毎月1日の月刊発行を行った。
- (2) 「35mm/16mmカメラの取り扱い方」の新版発行

**[4] 映画及びテレビジョンの技術に関する内外諸団体との連絡協調**

- (1) 「ISO/TC36 (映画) 国内協議会」を開催 (6回) し、関連規格の審議を行った。
- (2) 映画産業団体連合会の維持会員として「映画の日」の行事等に協力。
- (3) 映画産業団体連合会「予告篇等音量適正化委員会」の事務局を担当／録音スタジオ等の音量値報告書の集計。
- (4) 映画産業団体連合会理事会にオブザーバーとして出席／事務局長連絡会議に参加。
- (5) 映像関連団体事務局連絡会議に参加し (8回)、関連団体との情報交換等を行った。
- (6) 中国および台湾映画テレビ技術学会、韓国映画撮影監督協会、等海外諸団体と機関誌の交換等を行った。

**[5] 映画及びテレビジョンの技術に関する研究業績及び技術成果の表彰**

以下7件の賞の選定及び会友の推薦表彰を行った。

- (1) 日本映画テレビ技術協会 技術開発賞
- (2) 日本映画テレビ技術協会 映像技術賞
- (3) 日本映画テレビ技術大賞 (経済産業大臣賞)
- (4) 日本映画テレビ技術協会 栄誉賞 (業界、協会に於ける功績、功労に対して授与)
- (5) 柴田賞 (顕著な業績を残している若手技術者に授与)
- (6) 小倉・佐伯賞 (機関誌に掲載された優秀な執筆に授与)
- (7) 鈴木賞 (科学映像の撮影で優秀な技術者に授与)
- (8) 会友推薦 (長期にわたり協会に協力、功労に対して)

**[6] その他本会の目的を達成するための事業**

- (1) ホームページ (//www.mpte.jp/) による広報活動  
協会 (支部を含め) の行事予告・報告等を行った。  
協会ホームページに「セミナーの動画サイト」を掲載。
- (2) 新年名刺交換会 (1月11日) を開催。
- (3) 日本アカデミー賞、東京国際映画祭、すかがわ国際短編映画祭等の運営に協力した。

以上

**会 員 数 現 況**

2012. 3. 31. 現在

普通会員			準会員		名誉	(相)	計
法人	個人	海外	一般	学生			
165	1,492	6	281	56	7	(3)	2,007

普通会員	本部	京都	大阪	中部	北海道	九州	東北	中国
内 訳	1,121	39	107	64	48	47	43	23